

日本代表の対戦相手を分析 《カリブ強豪編》

VISITOR Vol.1

カリブを制するものは
世界を制す！

カリブ4強の戦力分析

2	ドミニカ共和国	6	プエルトリコ
4	ベネズエラ	7	キューバ

WBC2017組合せは既に決まっている？

9 侍の対戦国を予想

Dominican Republic



ドミニカ共和国
IBAF ランキング **5** 位

WBC本戦 通算成績
14勝 4敗

主要国際大会成績	
WBC 06	ベスト4
五輪 08	予選敗退
WBC 09	Round1敗退
W杯 09	不参加
W杯 11	Round1敗退
WBC 13	優勝

連覇を狙うメジャースター軍団。次回も優勝候補

Round1敗退という屈辱を味わった2009WBCから一転、2013WBCでは全勝優勝という見事な形で名誉を挽回したドミニカ共和国。特に、攻撃における戦力の充実ぶりは他を圧倒した。体を仕上げてこなかったアメリカよりも、ドミニカの方が、“メジャー”と言うに相応しい活躍ぶりだった。

次回大会でも優勝候補の最有力である彼らだが、一番の関門は、意外にも1次ラウンドにある。(これは 同じくカリブの強豪のベネズエラにも共通することだが、)地理的な都合のため、1次ラウンドから、メジャーリーガーを多く擁するカリブやアメリカ大陸の強豪国と、対戦する可能性が非常に高いのだ(P.9参照)。そんな中、大会の中でピークを大会後半に持ってこようとすると、足元をすくわれ不完全燃焼のまま大会を終えてしまうのだ。2013年のベネズエラがそうだったように、一步間違えばドミニカが敗退していた可能性は十分あった。そのRound1をくぐり抜ければ、勢いそのまま一気に決勝まで勝ち上がっていくだろう。

> 予想メンバー

Pos	選手名	所属チーム
SP	ウバルド・ヒメネス	ボルティモアオリオールズ
SP	ヨダーノ・ベンチュラ	カンザスシティロイヤルズ
SP	イバン・ノバ	ニューヨークヤンキース
SP	ジョニー・クエト	シンシナティレッズ
RP	ペドロ・ストロップ	シカゴカブス
RP	ケルビン・ヘレーラ	カンザスシティロイヤルズ
RP	ネフタリ・フェリース	テキサスレンジャース
C	ウィリントン・カスティージョ	コロラドロックーズ
1B	エドウィン・エンカーナシオン	トロントブルージェイズ
2B	ロビンソン・カノー	シアトルマリナーズ
3B	ハンリー・ラミレス	ロサンゼルスドジャース
SS	ジーン・セグラ	ミルウォーキブルワーズ
LF	スターリン・マルテ	ピッツバーグパイレーツ
CF	カルロス・ゴメス	ミルウォーキブルワーズ
RF	ホゼ・バティスタ	トロントブルージェイズ
DH	カルロス・サンタナ	クリーブランドインディアンス

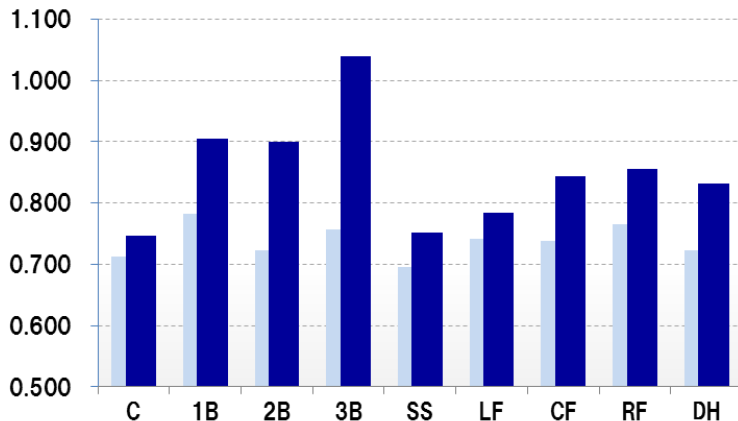
カノーは、2013年大会のMVP。その打棒でチームを初優勝に導いた。攻撃陣のrWAR合計は、41.8。一人平均4.6。rWARの目安は、5.0以上でオールスター選手レベルと言われており、データの的にも、ドミニカ共和国の攻撃陣は、ほぼオールスター級だと言える。投手陣のrWARは平均1.1と低いが、ベンチュラなどプロスペクトの成長が期待される。

戦力分析

> OFFENCE

スターティングメンバー OPS

■ MLB平均
■ ドミニカ共和国



スタメンのOPSは、全てのポジションでメジャー平均を上回る。3～5番(エンカーナシオン、カノー、Hラミレス)が目立つが、下位打線も気が抜けない強力な打線となりそう。右打者が多いので、P・アルバレス(パイレーツ)辺りも代表候補になるだろう。ラテン系の国は早打ちが多いが、サンタナ、バティスタ、エンカーナシオンなど、待てる選手もいるのが、ドミニカの強みだ。

セグラ、マルテ、Cゴメスの昨季盗塁数はいずれも40以上と、機動力もある。3人とも、メジャーで10位以内に位置している。

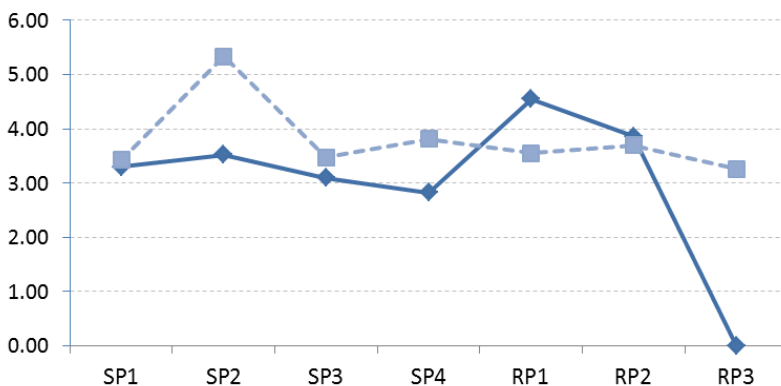
> DIFFENCE

投手陣は、現時点でMVP級の突出した選手がないものの、メジャーで一番人数の多い外国人軍団だけあって、選手層は非常に厚い。各球団のローテーションを担うレベルのピッチャーは揃えられるだろう。ただ、選手層の厚さの割に、左腕が少ないのが悩みだ。

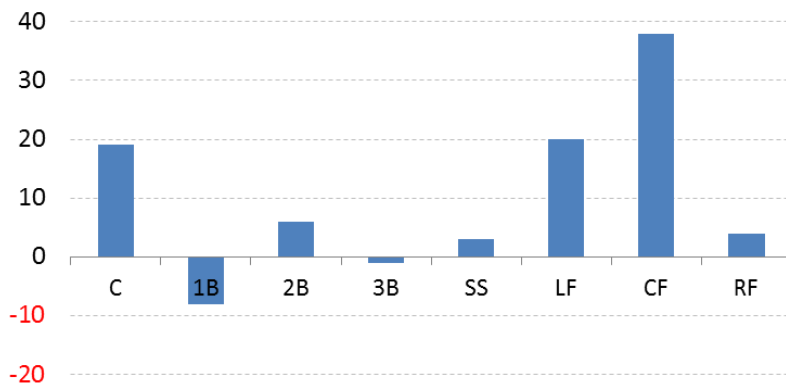
守備も大きくマイナスしている所も無い。W・カスティージョ、マルテ、Cゴメスは、それぞれ捕手、左翼、中堅のポジション別で、守備防御点メジャー1位を獲得している。

投手 防御率 & FIP

◆ ERA
■ FIP



スターティングメンバー 守備防御点



※ 3B ハンリー・ラミレスは 2012年シーズンの成績

Venezuela



ベネズエラ
IBAF ランキング **10** 位

WBC本戦 通算成績
10勝 7敗

主要国際大会成績

WBC 06	Round2敗退
五輪 08	予選敗退
WBC 09	ベスト4
W杯 09	7位
W杯 11	7位
WBC 13	Round1敗退

初制覇 目指す野球狂の国。勝負のカギは結束力

2013WBC。前年のWシリーズで主砲を担ったM・カブレラ、P・サンドバルの二人を擁したベネズエラは、それまでのダークホース的な扱いから、優勝候補筆頭に上がっていた。しかし、結果は史上最も過酷な死のグループ(ドミニカ、プエルトリコと同組)の犠牲者となってしまった。国内の期待も高かっただけに、早すぎる敗退に、出場を辞退したF・ヘルナンデスに批判が集まった。

次回大会でもドミニカと並ぶ優勝候補であることは間違いない。が、これまでのWBCでは、インパクトを残せていない。2013年大会でドミニカやプエルトリコが見せたような勝負強さ・粘りは、これまであまり感じられてこなかった。2009年WBCの準決勝 韓国戦も、守備の緩慢なミスで先制を許し呆気なく大会を去っている。ベネズエラが優勝するには、高い集中力と優れたパフォーマンスを見せる必要がある。

尚、M・カブレラは、次回 出場すれば4回目。最後のWBCで、同国に初優勝をもたらす三冠王の活躍が見てみたいところだ。

> 予想メンバー

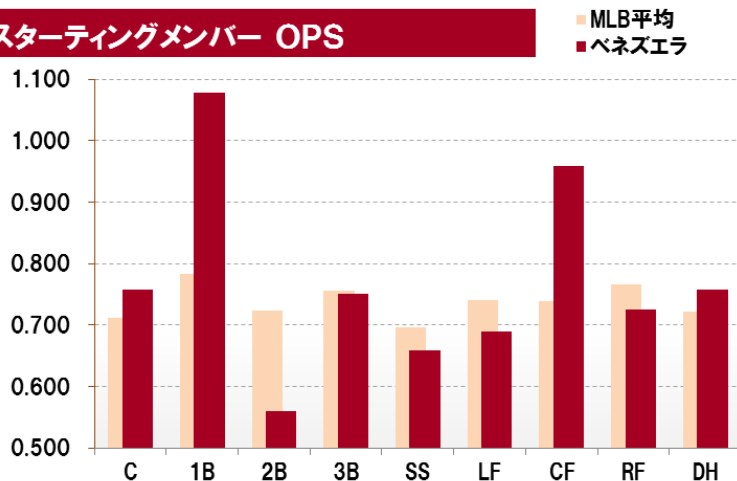
Pos	選手名	所属チーム
SP	フェリックス・ヘルナンデス	シアトルマリナーズ
SP	アニバル・サンチェス	デトロイトタイガース
SP	ジョーリス・チャシーン	コロラドロッキーズ
SP	マーティン・ペレス	テキサスレンジャース
RP	エドワード・ムヒカ	ボストンレッドソックス
RP	アレックス・トーレス	サンディエゴパドレス
RP	ルイス・アビラン	デトロイトタイガース
C	サルバドール・ペレス	カンザスシティロイヤルズ
1B	ミゲル・カブレラ	デトロイトタイガース
2B	アルシデス・エスコバー	カンザスシティロイヤルズ
3B	マーティン・ブラド	アリゾナダイヤモンドバックス
SS	エルビス・アンドルース	テキサスレンジャース
LF	グレゴール・ブランコ	サンフランシスコジャイアンツ
CF	カルロス・ゴンザレス	コロラドロッキーズ
RF	ヘラルド・パーラ	アリゾナダイヤモンドバックス
DH	パブロ・サンドバル	サンフランシスコジャイアンツ

攻撃陣のrWAR合計は、32.2。その中でも、rWAR 7.6のM・カブレラは、メジャーのレギュラークラス以上が揃うベネズエラ攻撃陣の中でも、特に突出した存在だ。カブレラに続くのが、MLBを代表する5ツールプレイヤーのC・ゴンザレス。攻守での活躍が期待される。投手陣も2番手以降、A・サンチェスやJ・チャシーンなど実力者が顔をそろえる。

戦力分析

> OFFENCE

スターティングメンバー OPS



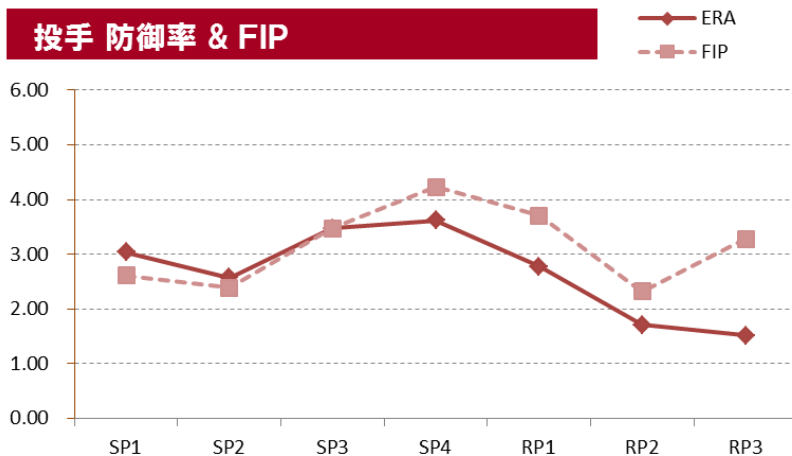
OPSは、M・カブレラとC・ゴンザレスの値が突出しているが、2Bを除けばほぼメジャー平均レベル。左右のバランスも良いが、ラテン系らしく、全体的に早打ちが多い。盗塁も、昨季42個のアドルースを中心に、二桁盗塁を記録している選手が5人と機動力もある。どんな相手でも得点を期待できる強力な打線だ。ドミニカと比較すると、やや見劣りするが、それは比べる相手が悪い。充実した投手陣を擁しており、全体的にバランスは、ベネズエラの方が優れている。

> DIFFENCE

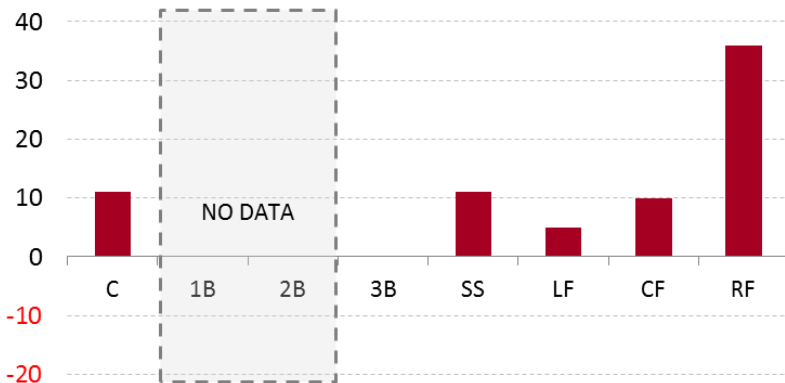
投手陣は、“キング”ヘルナンデスを筆頭に先発、リリーフともに優秀な人材を揃えている。投手陣は、ドミニカよりも強力的に見えるが、開催時期が3月ならば、コンディション次第だろう。

守りは、RFパーラが、守備防御点メジャー全体1位。S・ペレスの過去3年間の守備防御点は、Y・モリーナに肉薄する+21。M・カブレラの1Bコンバート後の成績が分からないが、特別よくなることは無いだろう。1B以外は、マイナスになりそうなポジションは無い。

投手 防御率 & FIP



スターティングメンバー 守備防御点



Puerto Rico



プエルトリコ
IBAF ランキング **9** 位

WBC本戦 通算成績
13勝 8敗

主要国際大会成績

WBC 06	Round2敗退
五輪 08	予選敗退
WBC 09	Round2敗退
W杯 09	4位
W杯 11	Round1敗退
WBC 13	準優勝

内野に若手有望株が揃い、3年後に期待大！

プエルトリコは、ドミニカ、ベネズエラと比較すると、選手層が薄い。プエルトリコは、1989年以降 MLBのドラフト対象国となったが、これにより若い段階で野球に専念する機会を妨げてしまった。2000年代辺りからは 徐々にメジャーリーガーの数が減少し、2006年WBCと比べると、2013年の代表チームにはメジャーリーガーが大幅に少なくなっている。だが、2012年 C・コレアがプエルトリカン初のドラフト全体1位で指名され、コレア以外にも リンドーア、ロザリオなど将来有望な若手が揃い始めた。彼らが順調に成長してくれば、次回2017年大会には面白い存在になるだろう。

また、プエルトリコを語る上で外せないのが、キャッチャーだ。プエルトリカンは、英語・スペイン語を話せるバイリンガルで、ピッチャーとのコミュニケーション上、そこが他の国の選手に対してアドバンテージになっている。また、アメリカ人選手が、キャッチャーという重労働なポジションをやりたいがらず、プエルトリカンが活躍の場を見出したのだった。プエルトリコが名キャッチャーの産出国となっているのは、このような事情があるのだ。

> 予想メンバー

Pos	選手名	所属チーム
SP	ヒラム・バーゴス	ミルウォーキブルワーズ (AAA)
SP	ホセ・ベリオス	ミネソタツインズ (A)
SP	ジュリオ・ロドリゲス	ボルティモアオリオールズ (A+)
RP	セイビア・セデーニョ	ヒューストンアストロズ
RP	ホセ・デラトーレ	ボストンレッドソックス (AAA)
RP	エフレイン・ニエベス	トロントブルージェイズ (A)
C	ヤディアー・モリーナ	セントルイスカーディナルス
1B	ネフタリ・ソト	シンシナティレッズ (AAA)
2B	アービン・ファルー	ミルウォーキブルワーズ (AAA)
3B	カルロス・コレア	ヒューストンアストロズ (A)
SS	フランシスコ・リンドーア	クリーブランドインディアンズ (AA)
LF	アンヘル・パガン	サンフランシスコジャイアンツ
CF	レイモンド・フエンテス	サンディエゴパドレス (AAA)
RF	アレックス・リオス	テキサスレンジャース
DH	エディー・ロザリオ	ミネソタツインズ (AA)

このチームの核は、何と云っても、Y・モリーナだ。前回大会で、準優勝できたのも、彼の存在が非常に大きい。また、2013年大会では、A・パガンがリーダーシップを発揮し、チームを鼓舞した。まずい守備もあったが、一戦一戦 格上の相手を倒していく姿と、試合後の喜び様は、彼らの大会にかける想いをストレートに表していた。

Cuba ~ MLB ver. ~



キューバ
IBAF ランキング **3** 位

WBC本戦 通算成績
13勝 7敗

主要国際大会成績	
WBC 06	準優勝
五輪 08	準優勝
WBC 09	Round2敗退
W杯 09	優勝
W杯 11	準優勝
WBC 13	Round2敗退

番外編！メジャー解禁後のキューバはようになる？

近年、メジャーへの流出が留まることを知らないキューバ。昨年は、Y・プイグ、J・フェルナンデスなど、キューバ出身の選手の活躍が目立った一年だった。

キューバは、過去 五輪を中心としたアマチュアの大会では、“赤い稲妻”と恐れられてきたが、近年の国際大会では 韓国やオランダなどに優勝を奪われている。2009年WBCでは、日本に2度完敗を喫し、その頃から戦力の弱体化が如実に表れ始めた。

そこで、キューバの野球協会は、他国のプロ野球リーグへのレンタル移籍を始めたり、亡命したコントラスの帰国を認めるなど開放路線にシフトし始めた。そして、2014年のカリビアンシリーズにも出場し、54年ぶりに復帰を果たした。

もしかしたら、次回のWBCではメジャーリーガー解禁？となるかもしれない。ということで、今回MLBに属するキューバ選手だけで代表チームを構成したらどうなるか・・・？選出してみた。もはや、キューバ国内の選手による代表チームよりも、こちらのキューバ代表の方が明らかに戦力は上だ。キューバ代表ドリームチームを是非見てみたい！

> 予想メンバー

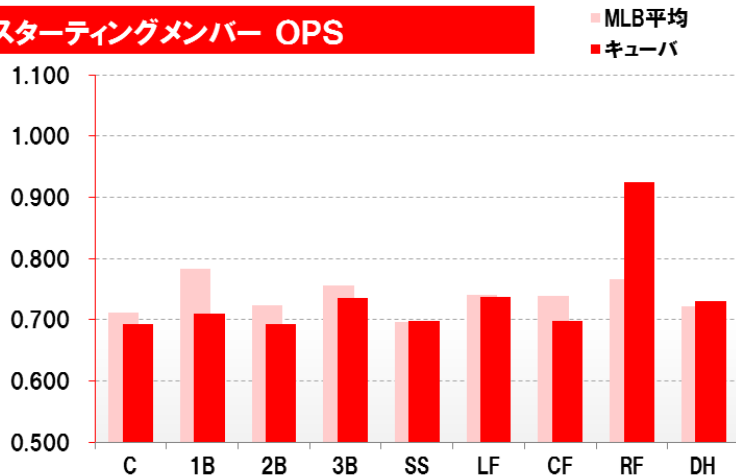
Pos	選手名	所属チーム
SP	ホセ・フェルナンデス	マイアミマーリンズ
SP	ミゲル・ゴンザレス	フィラデルフィアフィリーズ
SP	ユニエスキー・マヤ	ワシントンナショナルズ (AAA)
RP	オネキル・ガルシア	ロサンゼルスドジャース (AAA)
RP	フランシスリー・ブエノ	カンザスシティロイヤルズ
CL	アルディオス・チャップマン	シンシナティレッズ
C	ヤズマニ・グランダル	サンディエゴパドレス
1B	ヨンダー・アロンソ	サンディエゴパドレス
2B	アレクセイ・ラミレス	シカゴホワイトソックス
3B	ホゼ・イグレシアス	デトロイトタイガース
SS	ユネル・エスコバー	タンパベイレイズ
LF	ヨエニス・セスペデス	オークランドアステチックス
CF	レオニス・マーティン	テキサスレンジャース
RF	ヤシエル・プイグ	ロサンゼルスドジャース
DH	ダヤン・ビシエド	シカゴホワイトソックス

攻撃陣のメンツは、各球団のレギュラークラスの顔ぶれが並ぶ。特にプイグを筆頭に、マーティン、セスペデスと外野にはタレントが揃う。更にはJ・アブレウ、アルエバルエナなど、今後活躍が期待できそうな亡命組が控えている。投手陣は手薄なのが問題。メジャーで活躍できているのは、J・フェルナンデスとチャップマンくらい。昨季亡命したM・ゴンザレスは、まだ未知数だ。

戦力分析

> OFFENCE

スターティングメンバー OPS



OPSは、RFのY・ブイーグが突出している。他のメンバーも、メジャー平均レベルを保っており、穴のない打線となりそうだ。ただ、キューバもラテン系の国らしく、全体的に早打ちだ。

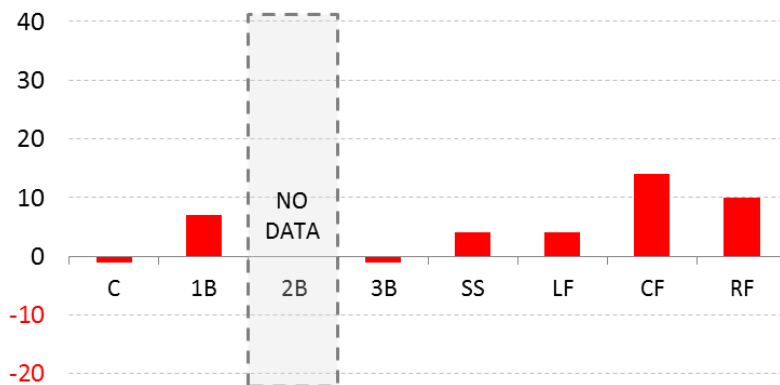
本国のキューバ代表は、スモールベースボールへの転換を図ろうとしているものの、うまくフィットしていない。もし、メジャー解禁のキューバ代表が結成された場合、どんな攻撃を志向するのが楽しみだ。

> DIFFENCE

投手陣は、メジャー組だけでは完全に駒不足。仮に、本国組と混同チームになっても、頭数が揃ったところで、どこまで活躍できるか、期待薄だ。

守備には、遊撃適性のタレントが揃っていて、3Bや2Bにはコンバート組やユティリティな選手が、カバーすることになりそうだ。最も、守備がどうこう言う前に、投手を何とかしないと試合にならない。2013WBCでは、スライダーピッチャーが多く、バリエーションも欠いた。頭数だけでなく、色んなタイプのピッチャーを揃えたいところだ。

スターティングメンバー 守備防御点



抽選ではないWBC組合せ。その仕組みとは？

WBCの対戦組合せは、サッカーW杯などの抽選式ではなく、運営機構側で決められている。組合せにしてしまえば、大人な事情で、大会が成り立たなくなるリスクがあるからだ。ここでは、前回は例にWBCを取り巻く組合せの“事情”を説明しよう。

[組合せは ①前回成績 ②地理 ③前回組合せ の順で決まる。]

2013年大会の組合せを見れば、その意図がはっきりと分かる。前回2009年大会で、ベスト4以上の国が、各グループに分かれて配置されている。他にも、Round2まで進出した国、Round1で3位となった国、予選組という括りで、それぞれ別グループに分かれているのだ。これにより、組合せの有利・不利が無いように“表向き”には配慮している。実際には、前回大会まさかのRound1敗退のドミニカの存在で、グループCが死の組になり、台湾に金星を挙げた中国の存在で、グループ

2013WBC 組合せ

A	B	C	D	前回大会成績
日本	韓国	ベネズエラ	アメリカ	ベスト4以上
キューバ	オランダ	プエルトリコ	メキシコ	Round2敗退
中国	オーストラリア	ドミニカ共和国	イタリア	Round1 3位
ブラジル	台湾	スペイン	カナダ	予選組

※赤字は開催国

プAは、日本・キューバにとって非常に楽な組合せとなった。

一番の肝は、地理的条件だ。グループC、Dの開催場所は、アメリカ大陸に位置し、ここにはメジャーリーガーを多く擁する国が配置されている。

WBCはメジャーリーガーの参加に非常に神経を使っている。メジャー開幕までに長距離の移動が無いよう、メジャーリーガーの多い国はグループCかDに配置されているのだ。(オランダは、アメリカに舞台を移した準決勝から、J・プロファーやK・ジャンセンのメジャーリーガー2名が途中参加した。)

当初の予定では、パナマ予選を勝ち抜いたチームはグループCに配置される見込みだったが、日本のプロ野球・社会人チーム所属の選手が多いブラジルが予選突破したため、グループCにはマイナー選手が多く所属するスペインが入った。

前回組合せも意識されている。例えば、中国は、地理的にグループAかBに入ることになる。Bに入った場合は、韓国と台湾(開催国)と対戦することになるが、これでは前回2009年大会のグループAで、日本と豪州が変わっただけの組合せになってしまうのだ。また、Round2敗退組(キューバ・オランダ)を入替える組合せも考えられるが、その場合グループAの日本の対戦相手が、オランダ・中国・ブラジルとなり、日本人が興味を引くような知名度のある対戦相手が居なくなってしまうのだ。このように、対戦の新鮮さ、注目度といった興業面が強く意識された組合せになっているのだ。

[次回大会の組合せは、どうなるか？日本のRound1の組合せを予想。]

話は次回2017年大会の組合せに移る。初めに“Round1の開催国がどこになるか？”だが、日本での開催は興業的に間違いない。3大会連続開催国となっているプエルトリコも当確だろう。グループDは、米国国内。グループBは、台湾か韓国のどちらかになりそうだが、前回台湾で開催しているし、復活を期す韓国が自国開催に向け、積極的に誘致を仕掛けられると思われる。マウンドの土の輸出入の問題があるらしいが、何とか対応を取るだろう。

2017 WBC 組合せ予想

A	B	C	D	前回大会成績
日本	オランダ	プエルトリコ	ドミニカ共和国	ベスト4以上
台湾	キューバ	イタリア	アメリカ	Round2敗退
中国	韓国	ベネズエラ	カナダ	Round1 3位
?	欧州?	メキシコ?	?	予選組

※赤字は予想開催国

そして、肝心の組合せだが、最初に前回成績別に、割り振りを決めていく。前回ベスト4以上の国がそれぞれ別グループに割り振られるが、この時点で日本は、ドミニカ・プエルトリコ・オランダとの対戦が無い。(もっとも、メジャーリーガーを多く擁する前者2か国との対戦は、絶対にあり得ない。)

次にRound2敗退組(アメリカ・イタリア・キューバ・台湾)の割り振りだ。開催場所の1つがアメリカ国内になると予想されることから、アメリカは、グループAやB(アジア開催)や、開催国となるだろうプエルトリコと同じ組にはならず、ドミニカと同じ組になる可能性が高い。また、イタリア系メジャーリーガーを揃えるイタリアは、プエルトリコ開催のグループCとなることが予想される。(もっとも、キューバが、メジャー解禁となった場合は、グループCには間違いなくキューバが入るだろう。)残るはキューバと台湾だが、前回組合せと重複しないよう、台湾がグループA、キューバがグループBとなると予想される。興業的にも、2013年大会で熱戦を演じた台湾との対戦の方が、注目を得やすい。

次に、Round1第3位組の割り振りだが、メジャーリーガーの多いベネズエラとカナダは、地理的にグループCかDに入る。ベネズエラとカナダが、それぞれどちらに入るかだが、ここでは大人な事情が絡んできそうだ…。もし、ベネズエラがグループDに入ると、ドミニカ・アメリカ・ベネズエラの優勝候補3か国が集まる“死のグループが出来上がってしまう。アメリカがRound1敗退をしてしまうようでは、興業的に多大な損害を被ってしまう。よって、グループDにはカナダが入る可能性が大だ。残る中国と韓国だが、韓国が開催国だとすると、日本のグループAに入ることは無い。(ちなみに、前回大会に引き続き、台湾が開催国となると、中国が台湾入りするのが難しく、そんな政治的な事情があるため、どうしても前回大会と似た組合せが出来上がってしまう。)

最後に予選組だが、実力的にメキシコの勝ち上がりは間違いない。メキシコは、メジャーリーガーが多いので、グループCかDということになるが、Dでは前回組合せに近くなってしまうため、グループCになる可能性が高い。また、オーストラリアも予選を勝ち抜く可能性が高いが、地理的にはアジアでもアメリカでもどちらにも入る可能性がある。ただ、前回組合せとの重複を避けようとする、グループBに入ることは無さそう。予選の1つに、欧州予選が組み込まれるだろうから、おそらくグループBには欧州が入るだろう。豪州はグループAかDに入る。

この予想結果を見ると、次回大会も日本は比較的楽な組合せに入ると見られる。台湾は強敵だが、残り2か国からの2勝は難しくなさそう。一方、他のグループの組合わせは厳しい。特にキューバは苦しい。開催国 韓国と、苦手オランダから、最低でもどちらかには必ず勝たなければならない。グループCは死のグループで、どこが勝ってもおかしくない。グループDでは、ドミニカとアメリカが、中堅カナダ相手に確実に勝ち星をあげられるかがカギとなりそう。